

平成 23 年 3 月期第 1 四半期連結決算発表

平成 23 年 3 月期第 1 四半期連結業績は増収、増益

当期におけるわが国経済は、個人消費や輸出関連産業が徐々に持ち直しておりますが、デフレ脱却にはまだ時間がかかる様相を呈しています。当社グループを取り巻く環境は、少子高齢化、人口減少というマイナス要因に加え、消費者の節約志向や低価格志向が続くものと思われ、今後も厳しい見通しとなっております。

このような状況の下、食品部門は積極的な新製品提案や新規顧客開拓努力により、コア事業であるイースト、フラワーペーストに加え、総菜、パン品質改良剤、粉末かんすいの出荷が好調で、売上は順調に推移しました。

バイオ部門は、バイオ事業を「研究・創薬支援事業」と位置付け、一貫した研究・開発支援サービスを積極的に展開しました。その中で、診断薬原料、抗体やタンパク質の受託生産、培養用基材の売上増が寄与し、昨年度の養魚飼料事業譲渡による売上減をカバーし、ほぼ前年並みの売上となりました。

この結果、当期の売上高は、162 億 28 百万円、経常利益は、原材料相場が昨年来の水準で安定して推移したことや、生産コスト低減努力により 8 億 99 百万円、四半期純利益は 4 億 43 百万円となりました。

平成 23 年 3 月期 連結業績予想

食品部門は、国内食品市場は依然としてデフレ状況が続いており、消費者の低価格志向は今後も続くものと思われ、このような中、ベーカリーへの積極的な新製品の提案を継続するとともに、ベーカリー市場以外の新規市場の開拓を進めてまいります。併せて、「安全・安心なものづくり」を基本姿勢とし、トレーサビリティシステムの導入等による品質保証体制をさらに強化してまいります。

バイオ部門は、医薬品業界の 2010 年問題、薬価改訂をはじめ、医療制度の抜本的な見直し等がバイオ部門の業績に少なからず影響を及ぼすことが予想されます。これら医薬品業界を取り巻く事業環境の変化に柔軟に対応し、また遺伝子組換え技術を利用した酵素の開発や上市を積極的に推進してまいります。

海外におきましては、食品部門はアジア地域における積極的な事業展開、バイオ部門は海外子会社を拠点に、BRICs 諸国をはじめとした新市場での販路拡大を目指してまいります。

連結業績予想につきましては平成 22 年 7 月 14 日に公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」に記載の業績予想に変更はございません。

株日清製粉グループ本社による当社株式に対する公開買付け及び配当予想の修正について

本日開催の取締役会において、株式会社日清製粉グループ本社による当社普通株式に対する公開買付けについて、賛同するとともに、当社の株主の皆様が当該公開買付けに応募することを推奨する旨の決議をいたしました。また、本公開買付けの成立を条件として中間配当・期末配当を行わないことを決議いたしました。詳細については、同日発表の「支配株主である株式会社日清製粉グループ本社による当社株式に対する公開買付けに関する意見表明のお知らせ」及び「平成 23 年 3 月期の配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

以上